

# アスモ新聞

2008年2月1日(金)

人に喜ばれる仕事を!!」のアスモは、みなさまとの新たな出会いをお待ちしております。

発行所  
在宅介護センター・アスモ

創刊第29号

〒165-0026  
中野区新井1-26-4 オスカーマンション2F

☎03-5318-4007



代表取締役 花堂浩一

ちっちゃな「バス停」ものがたり

先日、ある先輩経営者のブログ(インターネット上に公開されている日記)を見てみるとそこに紹介されている、ある会社のホームページの片隅に「ちっちゃな『バス停』ものがたり」という記事が掲載されており、心暖まる内容だったので御紹介させていただきます。

・・・車が行きかう道路沿い、オゼック国分寺店の脇には駅に向かうバス停がひとつあります。そのバス停では当時、利用者は間近を走る車に気をつけながら、小さくたってバスを待っていました。その心細さをよく知っていたのが尾崎副社長。子供のころ、このバス停をよく使っていたのです。そのため危険であること、怖いことをよく知っていました。「どうにかして安全にバスを待てるようにできないか・・・」。オゼック国分寺店を運営するオザキエンタープライズは、バスを利用する人、道路を通る人たちのために考えました。そして、平成2年の店舗リニューアルに先駆け、お店の一部をくり抜いて、バスの小さな待ちスペースを作ったのです。お年寄りのためにも、2・3人がけのベンチを設置しました。それからは、地域の人たちに「オゼック前のちっちゃなバス停」として親しまれているそうです。お店のなかだけ改善しても仕方ない。地域の人たち全員に、優しい気持ちになしてほしい。そんな気持ちで形になってあらわれたバス停だそうです。現在は都内で数店舗の遊技場(パチンコ店)を運営する、オザキエンタープライズは、もともと先代が農業を営むことからスタートした会社のようなのです。先代から受け継いだ「土を耕す心」を経営に生かしているそうです。これは、強い風も冷たい雨も、すべては未来にある実りのための困難であるとして、自然からの恵みを受け入れ、感謝する気持ちのことだそうです。うれしいことも大変なことも、すべての出来事に感謝することで、大きな実りになるのだと。・・・国分寺に向いたときは、このちっちゃなバス停を覗いて見たいと思います。



## 勉強会のお知らせ

アスモでは3月15日(土)にたんぽぽ介護と合同で勉強会を開催いたします。介護技術講習や骨折予防など役立つ内容を企画しております。ふるってご参加ください。

## 簡単ちらし寿司

材料(2人分) ごはん2人分 すし酢大匙1~2  
☆(しらす 青ねぎ 白ごま 適量)  
鮭フレーク適量 のり1/2枚  
卵1個 むきえび10尾 青シソ適量

- [1] ごはんにすし酢をかけて混ぜ、☆の材料も混ぜておく。
- [2] 炒り卵を作る。
- [3] むきえびをゆでておく。青ネギは小口切りに。
- [4] 皿に酢めしを盛り、炒り卵、鮭フレーク、えびをのせる。彩りに青ねぎ(好みで青シソ)を散らす。



菜の花やいくらの具をお好みに彩りよくのせてどうぞ♥

# 私のドラマ...

義父の想い

アスモグループ会長  
南 直也

正月、妻の実家に帰省したときのことで、  
元旦はちょうど義父の透析の日に当たっていました。  
朝バスで病院へ行った父を、午後に車で迎えに行くことにしました。  
義兄が運転する車に私・妻・子供が乗り、途中食事をして病院に行きました。  
ところが、病院で義父を乗せ、5人で帰る途中、正面衝突の事故に遭ってしまいました。  
義兄は肋骨骨折、私も肋骨・胸骨・肩甲骨骨折、妻は左手首打撲、子供は左目尻にかすり傷。  
義父は左足複雑骨折で全治3ヶ月の重傷で手術をしました。  
後日、私と妻と息子の3人で義父の見舞いに行くと、病室の義父が  
「おまえがなんともなくてよかった。元気な姿を見ておじいちゃんは安心したよ。」  
と子供(義父にとって孫)に声をかけてくれたのです。  
病床の76歳の義父が、小学生の孫の心配をしてくれている！  
ああ、この事故の傷は義父が全部背負ってくれたんだなあ、と思いました。  
私は早くに父を亡くしていますので、義父の深い想いにつくづく頭が下がりました。  
お義父さんありがとう、早くよくなってください。東京から祈っています。



！架空請求ハガキにご注意ください！



「民事訴訟裁判強制執行最終通達書」という、架空請求ハガキが出回っております。  
「貴殿は訴訟されましたので、連絡のないお客様には不動産、給料などの差し押さえを強制執行します。」などと、訳のわからない文章で不安をかきたて、電話をかせさせようとしています。  
電話をかけさせて、脅かすことが目的ですので、安易に問い合わせの電話をするのはやめましょう。

とにかく身に覚えの無いものは無視することです。

沼袋村は上沼袋と下沼袋の二つの村に分かれて  
いました。  
上沼袋は現在の和和町にあたり、東西十五町  
(1.6km)、南北九町(9.8km)ほど  
の広さでした。  
上沼袋の西には上沼袋村から分かれた枝郷大場  
村がありました。鎌倉時代には「中野内大場」  
と呼ばれており、現在の環七通りと早稲田通り  
の交差点あたりの地域をさしていたようです。  
下沼袋村は、現在の野方三々四丁目から沼袋一  
々四丁目にあたります。東西十町(1km)、  
南北八町(870m)の広さで、畑が多かった  
といえます。  
元禄の頃には、下沼袋村から新橋村が分かれま  
した。現在、中野工業高校近くのバス通りに、  
明正寺川にかかる新橋という橋はこの名残です。  
江戸時代(文政年間)の人口は、上沼袋村が2  
40人(60戸)、下沼袋村も240人(60  
戸)、大場村は146人(36戸)、新橋村が  
76人(19戸)と推定されています。

むかしの沼袋は、今の野方、大和町、沼袋を含  
む広い地域でした。  
石器時代の沼袋の地は大きな川でしたが、上流  
の森林の伐採や、地変などにより自然に水がか  
れてしまい、深い部分が沼となってあちこちに  
残ったため「沼袋」という村名となったといわ  
れています。(この川と南から流れてくる神田  
川とが落ち合うところが、現在の落合の地で  
あったそうです。)

シリーズ4

なかのものがたり

沼袋

